

## 21 世紀にキリストを生きる

「声なき者の友」の輪 柳沢 美登里 「祈りの通信」

第21号 (2018年12月)

### ＜主イエス様降誕の季節を迎えて・・・「安息日の主」の宣教に参加する＞

先日、新聞の月間特集「君たちはどう休むか」という見出しに目が留まりました。欧米諸国やアジア、そしてイスラエルの事例を紹介したものです。イスラエルの事例の小見出しは「スマホ、神様が強制終了 ユダヤの安息日」でした。24時間、公私共にインターネット常時接続が可能な現代社会で「安息日」を選び取る。厳密には、神様が電源オフ！と強制終了するわけではないので、人の側が神様から与えられた規則を「人を生かす」ものと受け取り、安息遵守のため24時間スマホをオフにするのです。引用された「ユダヤ人が安息日を守ってきたのではなく、安息日がユダヤ人を守った」という格言に深い真理を感じました。ユダヤ・キリスト教の土台の聖書には、宇宙全体から微生物や細胞に至るまで創造された「神の主権」と人格や情緒、判断力を神にかたどられていながら、神から離れた罪人であるために回復を呼びかけられている「人間の主体的な行動」の間の緊張が「物語」形式で示されていると思います。この格言は、「神の主権」に主体的に応答して、大切な役目に呼び出された共同体が祝福を受ける原則を絶妙に表わしていると思いました。

モノ同士がインターネットで接続する現代のIoT技術は、声一つでモノを思い通りに動かせる時代を到来させました。この時代を生きる神の民にとって、本来の24時間の「安息日」は「真の神にすべての主権がある」ことを回復するために欠かせない一日であることを思います。イエス様も当時、神が意図されたこの安息日の本質を取り戻すため、人の都合に引きずり降ろした解釈を広めた指導者たちと対決されたのでした。

現代のキリスト者にとって「安息日」は被造物を喜ばれた神のように、神と被造物を喜び、神にかたどられた人が創作した美しいものを喜びと同時に、罪で喘ぐ被造物の回復を成就される主に意識を向けて「被造物と回復の成就」という統合を覚える一日であるはずです。「神に造られ、回復された」という神の民の立ち位置を確認し、自分や他者、そして被造物の美しい存在を神と共に喜び、現代世界で痛んだ被造物の姿に嘆き悲しむ主が「被造物を回復する宣教」を進めておられることを思い巡らす。その宣教に、一人ひとりがそれぞれの賜物に従って参加してほしいと、「安息日」の主はかすかな声で呼びかけられている！

振り返ると、産業革命以降、天頼みの農業中心の暮らしから工場生産・組織管理方式という人による計画と組織管理や経験を蓄積したマニュアルが浸透し、「人間がコントロールしているから安心」と思える社会に変容しました。すべてをスムーズに進めることを基準としたシステムに囲まれ、それを構築した人間にいつの間にか依存していることに気づかないのです。一方、人が失敗すると苛立ち、不安が増すのが現代社会です。

わたしが「包括的宣教」に関わった30年、世界の「宣教」の働きに流れ込んだこの潮流を経験してきました。「人間の主体的な行動」が強調される反面、「安息日」の主がひっそりとされていることに心を傾け、主が待っておられる「とき」を共に待ち、聖霊に促されて主が働かれることに参加するという「神の主権」への主体的応答という、宣教の本質を見失っていたようにも思います。心のどこかで週1時間の礼拝で「安息日OK」と思い込んでいた自分にも気づかされます。七日に一度の24時間、「人がコントロールしているんです。あなたの思い通りになる世界ですよ」という現代の偶像が囁く声から解き放たれ、21世紀の「神の宣教」に参加するために「安息日」の主のかすかなみ声に、心の耳を澄まして過ごす。主イエス様が願うであろう現代の「安息日の本質回復」を思いめぐらしながら、主のご降誕の季節を迎えています。

## DNA アジア・フォーラム参加 In チェンマイ

「声なき者の友」の輪が理念を共有する世界の仲間たちとのネットワークが、21年前に始まったDNA (Disciple Nations Alliance) です。マタイ 28:19 「あなたがたは行って、すべての民を弟子としなさい」から名付けられました。21年前に創設者たちが「民を弟子とする」内容として必要を感じたのが、ローマ書 12:2 でパウロが伝えた「心を新たにすること、つまり「ものの見方の聖書的転換（聖書の世界観）」とガラテヤ 5:14 「律法全体は『隣人を自分のように愛しなさい』という一句によって全うされる」から「隣人愛の習慣づくり」でした。

このアプローチは、90年代後半、中南米で増えた福音派のキリスト教会が貧困地域の変革に影響を与えられないのは、経済的に海外に依存するばかりで聖書のことばを包括的に捉えて実践できていないからではないか、という気づきから始まりました。そしてすぐ、キリスト教人口が多いアフリカ大陸に広がりました。アジアでは、キリスト教人口が少数なため、教会を基盤にするアプローチはゆっくりと広がったのです。

今回のアジア・フォーラムに参加し、このアプローチがアジアの宣教の先端で力を発揮していると感じました。20年前のアジアではクリスチャンが少なかったモンゴルやネパールでは、教会の増加と連動して「ものの見方の聖書的転換」や「隣人愛の習慣作り」の研修が自立した教会形成につながっていたのです。これらの国の牧師たちは自活のためだけでなく、近隣の貧しい人々の間で隣人愛を実践するため、小規模な畑を耕し、養鶏や山羊飼育、家屋建築など様々な働きを展開していたのです。「地域に置かれた教会とは何か。」このアプローチや交流を通して、これらの国々の第一世代キリスト者が考えを深めている姿に触れられたことに感謝しました。

「神のことばには力がある。」人と被造物のすべての面を回復しようと主の働きにアジアの同労者がこれだけ参加していることに力づけられた集まりでした。



## 「被造物ケア」への関わり・その後

昨秋、「祈りの通信」でご紹介したようにバンクーバーの「被造物ケア」の働きに関わる教会や団体を訪問しました。福島原発事故から主に示されて、大地に親しむ農業ミニストリーを始めた教会、そして「被造物ケア」を推進する国際団体の地域社会に根差した農業に参加しました。以来、地球環境の重大さがさらに深まり、祈り続けています。

バンクーバーを一緒に訪問した友人夫妻は、単なる自然農法作業に留まらず、神を賛美し祈り、大地を耕すという確信が強まり、年明けから本格的な農地探しを始めました。ホッとする里山がある農村に暮らしたい夫君でしたけれど、友人は高齢の両親のもとにすぐ駆けつけられるように首都圏近郊で探していました。思ったように希望した農地が見つからないと近況を知らされました。農業散布するゴルフ場が郊外のいたるところにあったのです。7年前の原発事故で、放射性物質が生態系に取り込まれて深刻な大地の汚染が起き、居住も制限されたことに心を痛めました。私たちの社会のいたるところで、人間の都合と利便が最優先されていることを思い知らされました。神が造られた生態系には、見向きもしていないのです。

友人夫妻がやっと納得できる地を見出して借りることができたとき、神様が導いてくださった園だと、心から一緒に喜びました。

8月末、大地を造り維持しておられる神を賛美し、祈って初種まきに参加しました（写真）。「主が造られた被造物を大切に循環させる農業に関われる！」主の回復のわざに参加する喜びに満たされました。2か月後・驚くべき事を知らされました。丘の向こうわずか2キロ先に廃棄物高度処理施設があったのです。「主よ、これはどういうことですか？」次頁へ

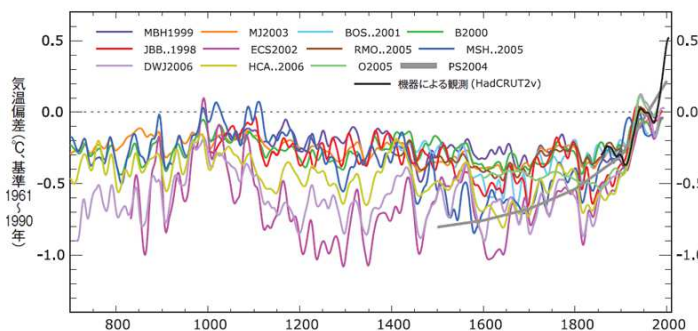


# 「被造物ケア」への関わり・その後・・・「破れ目」に直面！主の回復の働きに導かれて

## ＜私たちが暮らす現代世界・身近な社会＞

今年、世界や日本で地球温暖化が原因と思われる豪雨、洪水、干ばつによる山火事という深刻な災害が次々に起こりました。北半球の過去 1300 年ほどの気温偏差の推移を見ると（グラフ：第 4 次 IPCC）、どの推計値も 20 世紀後半からぐんぐんと上昇する傾

復元された北半球の気温



向を示しています。これは地球の大気循環の変動ではなく、明らかな人的影響の反映を示しているようです。20 世紀、人類はものを動かす動力の一つとして電力を見出し、発電を始めました。20 世紀半ば、森林を破壊し、居住地を奪うと言われたダムによる水力発電は急速に石炭、石油、天然ガスでの火力発電に取って代わりました。森林を破壊しないで、需要に近い場所に発電所を建設できるからです。ところが、世界中で火力発電所が稼働し、化石燃料の発電が活発になると、莫大な量の二酸化炭素が排出されるようになりました。ものを動かすため（スマホの画面も！）電気エネルギーは欠かせません。今後、AI で作動する機器のため、世界でもっと電力は必要になるでしょう。私に関わってきた途上国では、今、すべての人に電気のある生活と工場の操業に見合うための電力は必須です。もっと電力を作るか輸入しなければなりません。温暖化に対応するための手段は二つ。太陽光や風力などの再生可能エネルギーの利用と二酸化炭素を出さずに安定して電力を作る原発稼働です。再生可能エネルギーは天任せで発電量が不規則なため、大容量蓄電技術の進歩が必要です。安定的電力供給と温暖化対策のために、インド、バングラデシュ、その他の新興・途上国では原子力発電という選択肢が手放せないのです。

7 年半前の原発事故から、やっと気づき始めたのですが、私たちが目にする現代世界は、簡単に解決策が見当たらないとても複雑に入り組んだものになっていました。20 世紀、地球上の誰もが神様から与えられたいのちと健康を守られ、安全な最低限の生活を送ることができるように電力が発明されて世界に広がったのは、主が備えて下さった人類への祝福だと信じます。その電力生産で二酸化炭素が増大し、処分先のない使用済み核燃料で環境破壊を生み出さずなら、神様の願った目的に反し、地球上の被造物のいのちと健康への災いになってしまいます。21 世紀が 20 年経つ今、新しい次元の知恵を神様に求め、転換する時代であることをひしひしと感じます。コロナ 1 : 20 の「十字架の血潮によって平和を打ち立て、地にあるものであれ、天にあるものであれ、万物をただ御子によって、ご自分と和解された」主なる神は「地球上のすべての人々と被造物や環境が、イエス様の血で本来の姿に回復され、すべてが喜ぶ姿」をこの時代、求めておられることを思い巡らされます。そして、21 世紀の神の民に、人類が貪欲の罠に陥らないようにその危険を見極めて警告し、新しい生き方のモデルとなるような新次元の歩みを期待しておられるように感じます。私たちに先立ってくださったイエス様の謙遜を身にまとい、主の知恵と聖霊の導きによる歩みを祈り求めずにはられない「私たちが暮らす現代世界」です。

身近な社会で一つの問題を解決しようとすると、他の問題が引き起こされる、とても複雑な社会になっていたことに気づかされます。複雑なので、最も面倒なものを人が少ない辺境の地に経済的補償つきで遠ざけ、一時しのぎをしてきました。こうして、私たちは普段、複雑さから目をそらし、快適そうに暮らします。この複雑さが原発立地地域に行くまでもなく、少し辺境な身近な社会に存在することを再確認したのが、今回、友人夫妻が自然農法を始めるために示された農地の目の前の山の向こう 2 キロ先に「廃棄物高度循環・処理施設」がある現実でした。

一見、自然に親しめそうで、農業散布で成り立つゴルフ場が首都圏近郊に密集していることにそれほど驚かなかった私も、この事実を知らされたときは愕然としました。これほど祈り、神様の被造物を慈しみ、生態系循環を大切にする農業を始めるために出会えたと思った農地の目と鼻の先に、高度に圧縮して処理された物質が貯蔵され、地下水、空気などに滲出しているかもしれない場所があったのです！12年前、人口が少ない地域で、健康にはほぼ影響ないと行政と企業が判断して建設したのでしょうか。「なぜ、ここに導かれたのだろうか？」

そう思い巡らす私の頭に浮かんできたのは大量生産、大量消費の果てに化学的・物理的に高度処理しなければならないほど、大量の廃棄物が社会全体を埋め尽くした現状でした。人の体のために安全な食物を作る農地のすぐそばで、直接埋め立てでは間に合わないため高度に圧縮・化学的に微細に処理された廃棄物が埋められていたのです。大洋にはマイクロプラスチックが充満し、魚介類やクジラまでも食物連鎖を通して体内に蓄積されています。人類だけの繁栄と快適さに目を向け、個人の消費を極限まで追求するなかで、資源の発見と発掘、技術の発達に猛スピードで進みました。何でも吸い込んで浄化してくれると思っていた大気、大地や大洋で起こる大循環や生態系システムに、生活と人間のための産業が甚大な影響を与えるようになっていたのです。ところが、人間の側はつい最近まで大循環や生態系システムという全体を見る視点をすっぱり欠いていました。「地球温暖化」の課題は、だいぶ理解が広がっています。けれども、温暖化は地球環境への影響の一部に過ぎないのです。

#### ＜神が主権を握る地球の大循環を貴ぶ歩みへ＞

誰がこの全体を見る視点で世界規模の大循環を考えられたでしょう。もちろん、宇宙と地球を造られた神様は、20世紀の人間がやってきたこととその影響をハラハラしながら！見守っていたことでしょう。なぜなら、地球の大循環や生態系は人間の基本的な

生活を支え、人が貪欲にのめり込まない限り、適切な繁栄を享受できるように神様が整えられていたに違いないからです。

神様が、この大循環と生態系の視点を一番、持つてほしかった人々は誰だろうと思ひめぐらしました。もちろん、「神の民」に違いありません！

人体に影響を与える化学薬品にできる限り触れない農地を探し求めた挙句、2キロ先に廃棄物高度循環・処理施設があり、地下水や大気の影響を見守る必要がある現実！友人夫妻のため、ふさわしい農地が与えられるようにと共に祈り続けた私にとって（友人夫妻にとっては、さらに）、愕然とさせられた段階を過ぎ、これは現実の複雑な社会から目をそらさずに、神様の視点で地球の大循環や生態系システムを学び、祈り、関わるようにというシグナル以外の何ものでもないと思えてきました。当事者の友人夫妻は今、この出来事に深い神様のご計画があり、関わるようにという合図として受け取っています。神様が造られた自然界の循環を推進する自然農法を通して「被造物」を大切に、同時に地球の「大循環」への影響を考慮したライフスタイルを模索し、主に知恵を祈り求め、同じ思いを与えられた仲間を広げていく。神の摂理のみ手の中で、祈りと耕すことを一つにする歩みが始まったように思うのです。

21世紀の地球と身近な社会の「破れ目」に直面したからこそ、コロサイ1:20でパウロが宣言しているように、主イエス様がすでに血潮を流し、贖い、和解させてくださった「宇宙規模の回復のみ業」という宣教に参加させていただく。

イエス様はこのために、この地球上の片隅に生まれて下さったことを思い巡らし、主の降誕を待ち望む季節を過ごしたいと思ひます。

この特別な季節、皆さまの上に、憐れみ深い主の恵みと祝福を心からお祈りいたします。共に歩めすことを心から主に感謝しつつ。 柳沢美登里

2018年12月1日

「声なき者の友の輪・Friends with the voiceless International (FVI)」の働きのために、お祈り、ご支援をよろしくお願ひいたします。活動報告は随時、ホームページ <http://www.karashi.net> でご覧いただけます。

「柳沢支援」は右記へお願ひいたします。 郵便振替：名称 FVI 口座番号 00180-0-300201